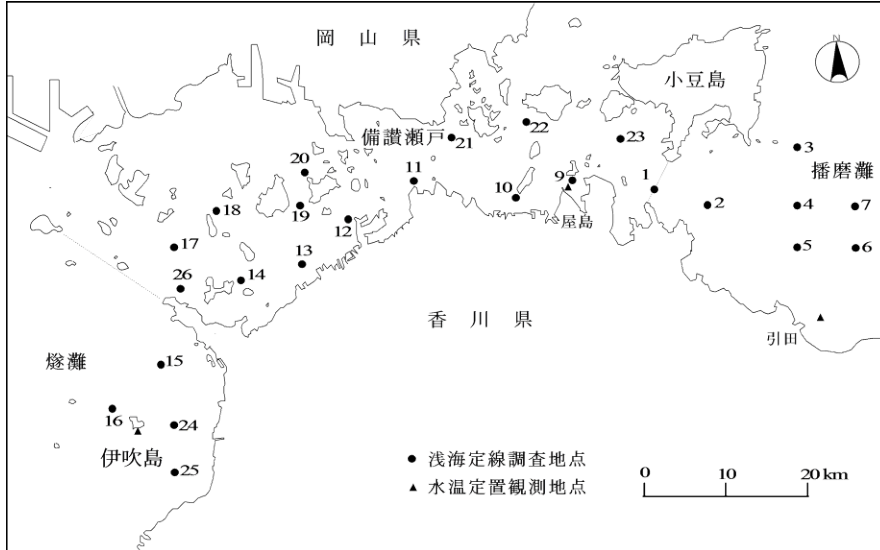


# 香川県漁海況情報 令和5年10月 (R5-7号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

令和5年10月3日（備讃瀬戸，燧灘），10月4日（播磨灘）

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「著しく高め」、塩分は「やや低め」から「平年並み」、透明度は「平年並み」から「かなり高め」、溶存酸素は「やや低め」から「やや高め」であった。

10月

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	27.0	26.8	26.6	31.5	31.5	31.7	11.8	4.48	4.41
	平年値	25.3	25.2	25.1	31.5	31.6	31.8	7.5	4.28	3.96
	平年偏差	1.7	1.6	1.5	-0.1	-0.1	-0.1	4.3	0.20	0.45
	標準偏差(σ)	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.6	2.7	0.34	0.58
	状況	著しく高め	著しく高め	著しく高め	平年並み	平年並み	平年並み	かなり高め	やや高め	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	27.4	27.4	27.4	30.9	30.9	30.9	8.1	4.14	4.11
	平年値	25.3	25.3	25.2	31.3	31.4	31.4	4.7	4.24	4.15
	平年偏差	2.1	2.1	2.1	-0.4	-0.4	-0.5	3.4	-0.10	-0.04
	標準偏差(σ)	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.9	0.40	0.42
	状況	著しく高め	著しく高め	著しく高め	平年並み	平年並み	平年並み	かなり高め	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	27.4	27.3	27.2	31.2	31.2	31.2	9.2	4.20	3.43
	平年値	25.4	25.2	25.2	31.5	31.8	32.0	8.3	4.56	3.75
	平年偏差	2.0	2.0	2.0	-0.3	-0.6	-0.7	1.0	-0.36	-0.32
	標準偏差(σ)	0.8	0.7	0.8	1.0	0.8	0.7	3.3	0.39	0.86
	状況	著しく高め	著しく高め	著しく高め	平年並み	やや低め	やや低め	平年並み	やや低め	平年並み

平年偏差＝平均値－平年値

平年値の算出期間

平成3年（1991）1月～令和2年（2020）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み

$0\sigma \leq \text{平年偏差} < 0.6\sigma$  (σ：標準偏差)

やや高め (やや低め)

$0.6\sigma \leq \text{平年偏差} < 1.3\sigma$

かなり高め (かなり低め)

$1.3\sigma \leq \text{平年偏差} < 2.0\sigma$

著しく高め (著しく低め)

$2.0\sigma \leq \text{平年偏差}$

### 3) 定置観測 (水温)

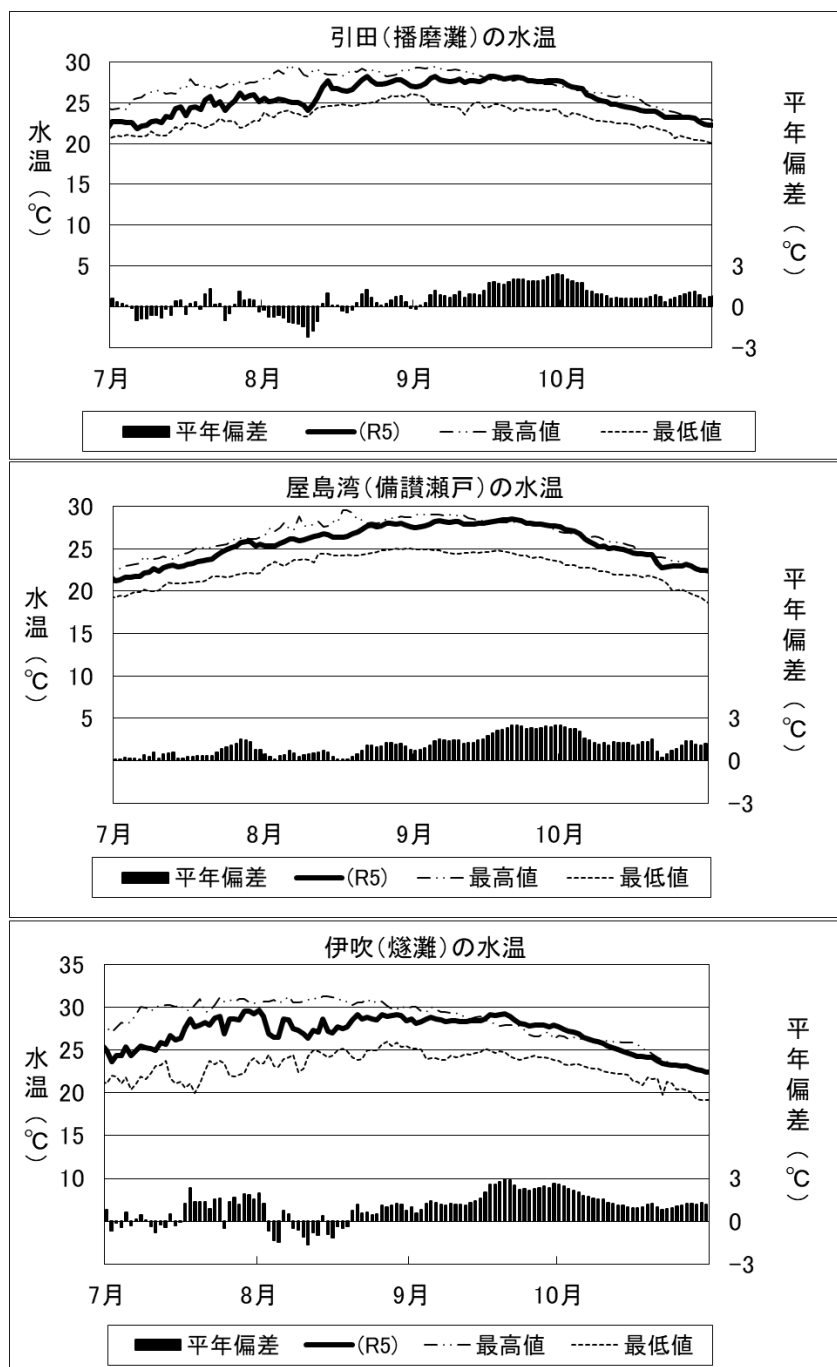
**播磨灘 (引田) :** 7月はやや低めからやや高めで推移し、8月上旬から中旬は低めで、著しく低い日もあった。下旬には高めに転じたが、そのまま横ばいとなった結果、10月上旬まで過去最高値を記録し続けた。その後はやや高めで推移した。

**備讃瀬戸 (屋島) :** 7月は概ね平年並みで下旬にはかなり高めとなった。8月の前半は平年並みで、後半は高めに転じた。9月はその水温がほぼ維持された状態となり、10月上旬まで過去最高値を記録し続けた。その後もかなり高めで推移した。

**燧灘 (伊吹) :** 7月中旬までは平年並みの日が多く、7月下旬はやや高めで推移した。8月は概ね平年並みであったが、9月はその水温がほぼ維持された状態となり、9月中旬以降から10月上旬まで過去最高値を記録し続けた。その後も高水温で推移し、10月下旬には再び過去最高値を記録する日があった。

※燧灘の水温は、平成31年4月1日から伊吹島地先で測定しているが、それ以前は大浜地先で測定していたことから、平年値の算出には両地先におけるデータを使用している。

平年値の算出期間 引田及び伊吹：平成元（1989）～令和4（2022）年  
屋島：昭和50（1975）～令和4（2022）年



4) 赤潮 (10月1日~10月31日)

播磨灘：発生なし  
 備讃瀬戸：発生なし  
 燧灘：発生なし

5) 卵稚仔

調査日：令和5年10月3日 (備讃瀬戸, 燧灘), 10月4日 (播磨灘)  
 出現量 (個・尾/曳網)

		カタクチイワシ		マイワシ		その他の魚類	
		卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘	平均値	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	平年値	1.7	0.2	0.0	0.0		
	対平年(%)	101.8	0.0	-	-		
備讃瀬戸	平均値	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	平年値	0.1	0.0	0.0	0.0		
	対平年(%)	4,075.4	0.0	-	-		
燧灘	平均値	26.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	平年値	3.5	0.3	0.0	0.0		
	対平年(%)	743.6	0.0	-	-		
総平均	平均値	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
	平年値	1.3	0.1	0.0	0.0		
	対平年(%)	637.4	0.0	-	-		

- : 平年値が0の場合を示す。(その他の魚類については平年値がない。)

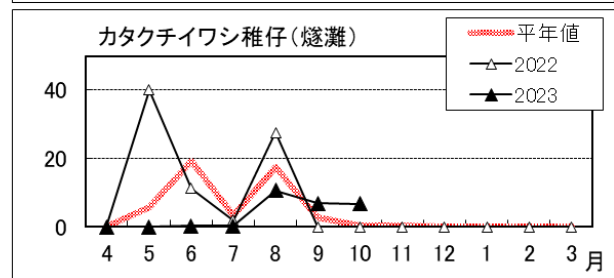
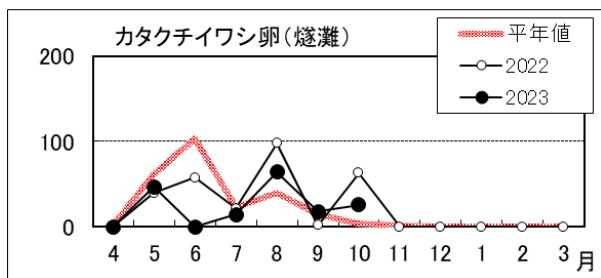
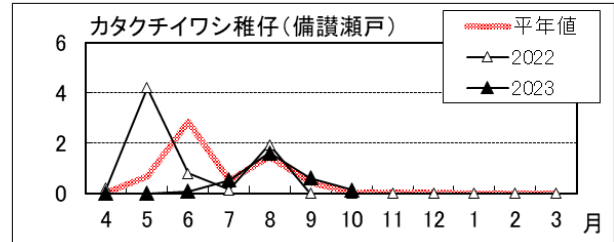
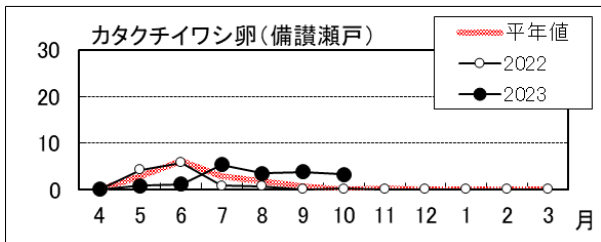
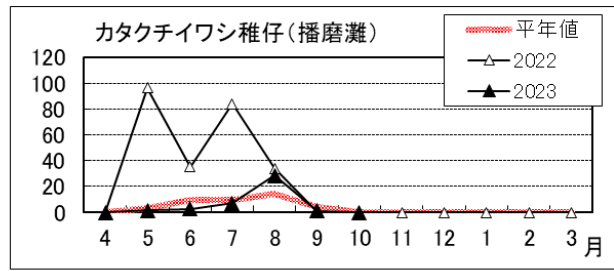
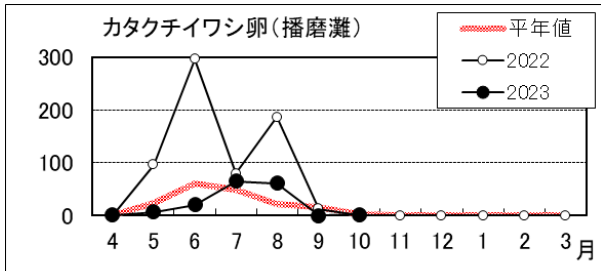
平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55(1980)年度~令和3(2021)年度

マイワシ：平成6(1994)年度~令和3(2021)年度

\*マイワシの卵・稚仔は、平成14年度以降、確認されていない。

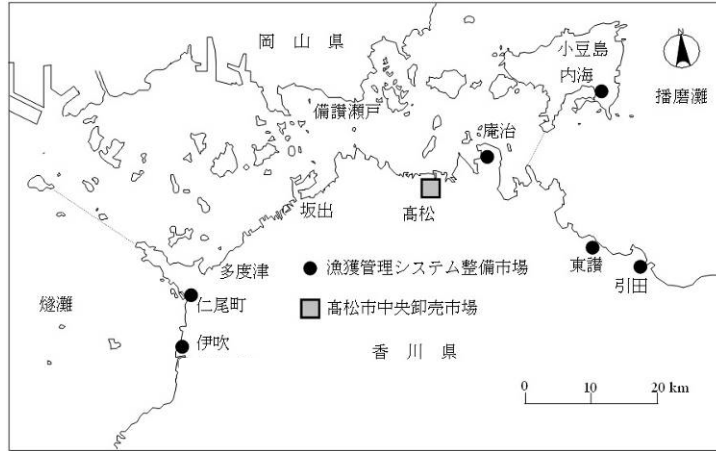
\*イカナゴの卵は、沈性弱粘着卵のため、プランクトンネットではほとんど採集されない。










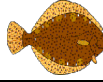

## 2. 漁況

### 1) 主要魚種の漁獲動向

次の地図に示す市場から収集した情報に基づいて漁獲動向を整理した。



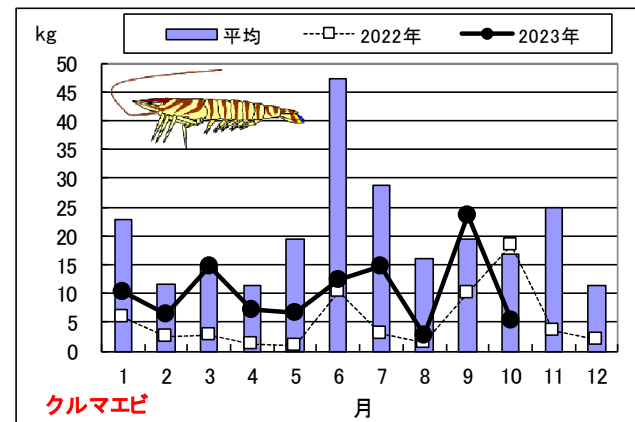
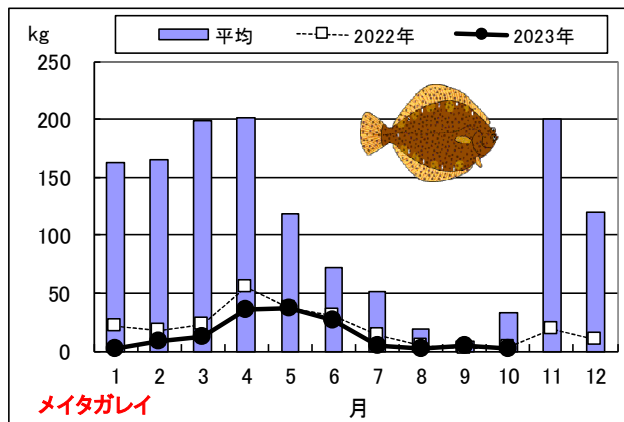
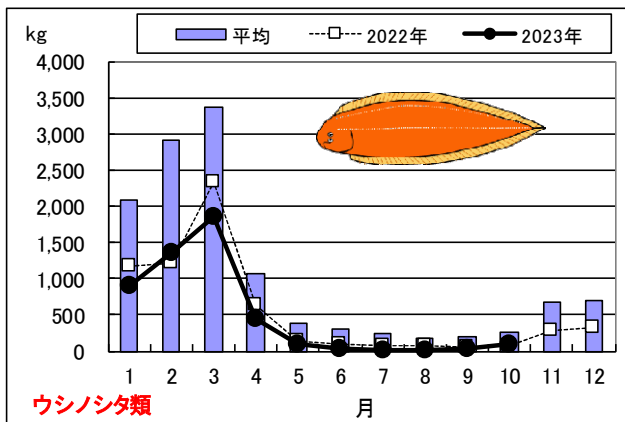
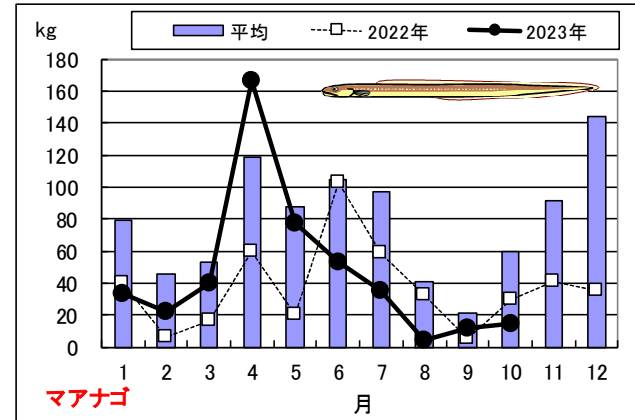
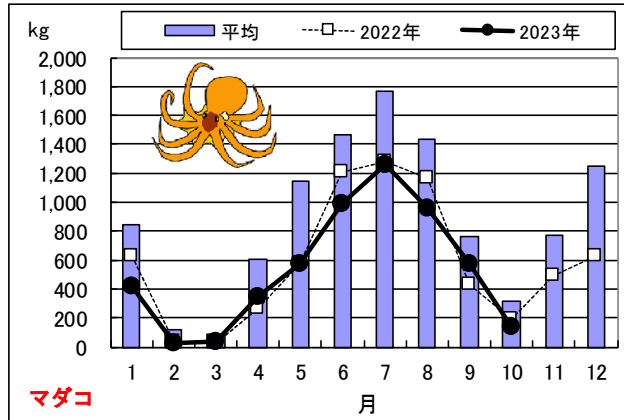
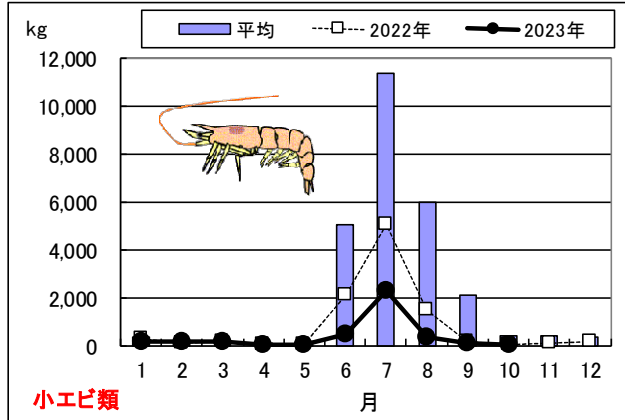
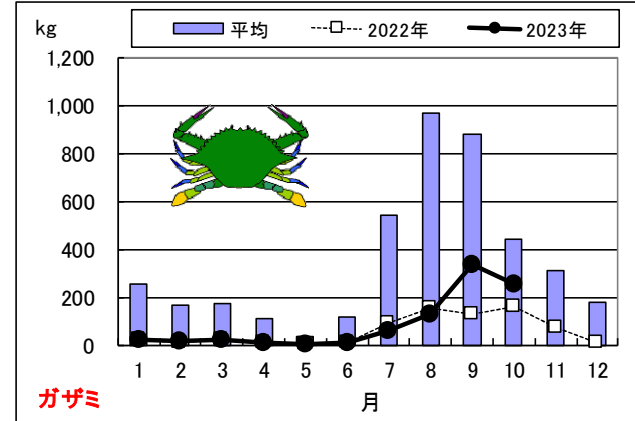
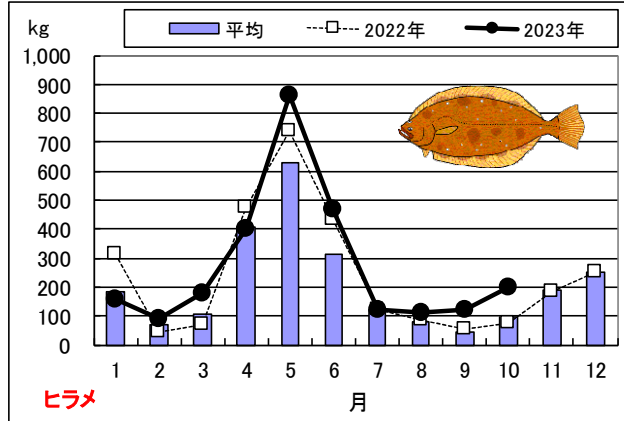
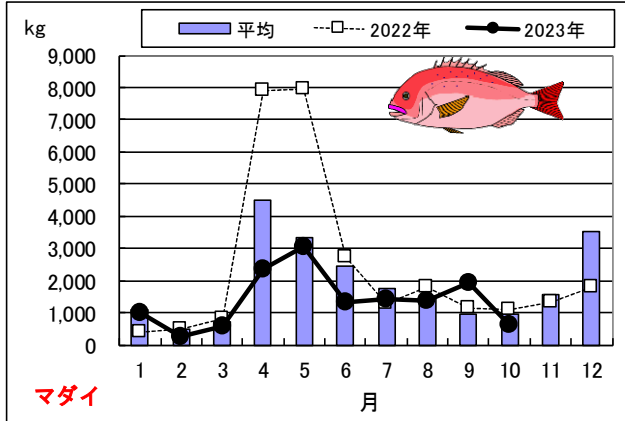
過去10ヶ年平均値と比較した海域別魚種別漁獲動向

令和5年10月の漁獲動向	播磨灘 (引田+東讃+内海)	備讃瀬戸 (庵治)	燧灘 (仁尾町+伊吹)
マダイ 	↓	↓	□
ヒラメ 	↑↑	□	□
ガザミ 	↓	↓	↑
小エビ類 	↓	□	↓
マダコ 	↓	↓	↓
マアナゴ 	↓	↓	↓
ウシノシタ類 	↓	↓	↓
メイタガレイ 	↓	↓	↓
クルマエビ 	↓	↓	□

過去10ヶ年平均値比	≥200%	200% > ≥160%	160% > ≥120%	120% > ≥80%	80% > ≥40%	40% > ≥0%
判定	著しく多い	かなり多い	多い	平年並み	少ない	かなり少ない
表示	↑↑	↑	↗	□	↓	↓

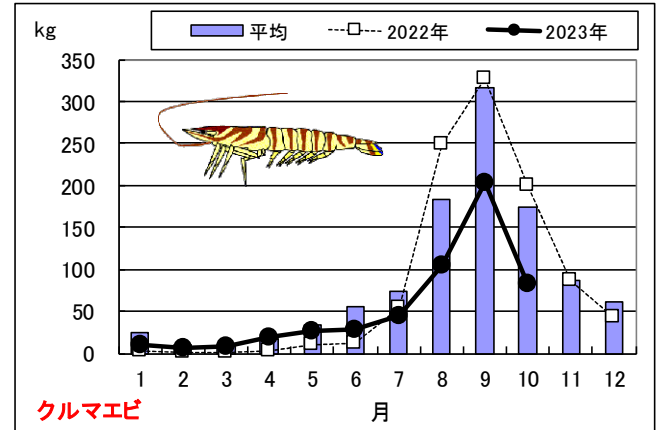
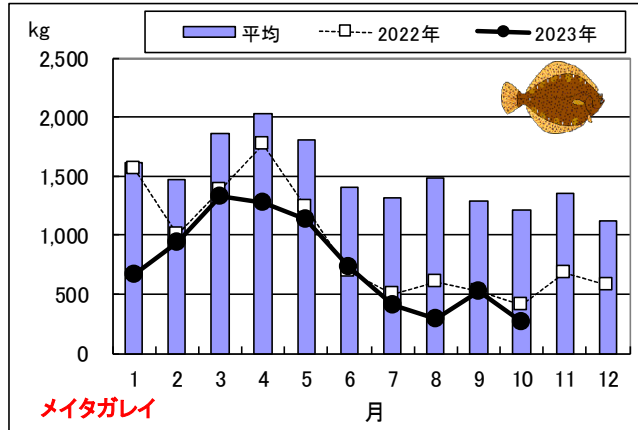
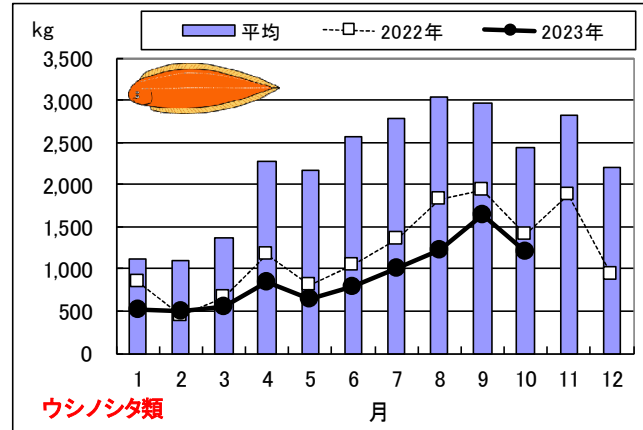
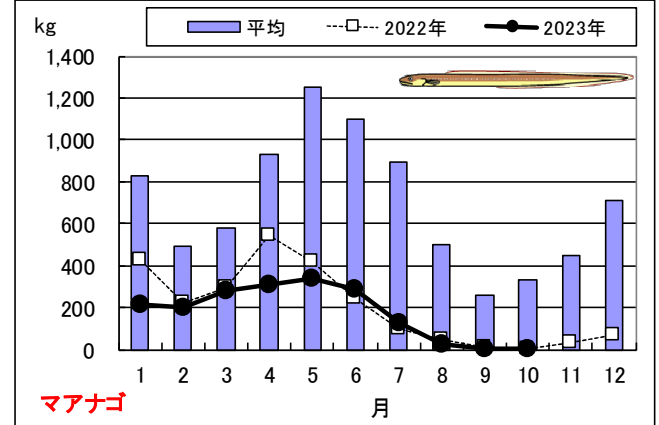
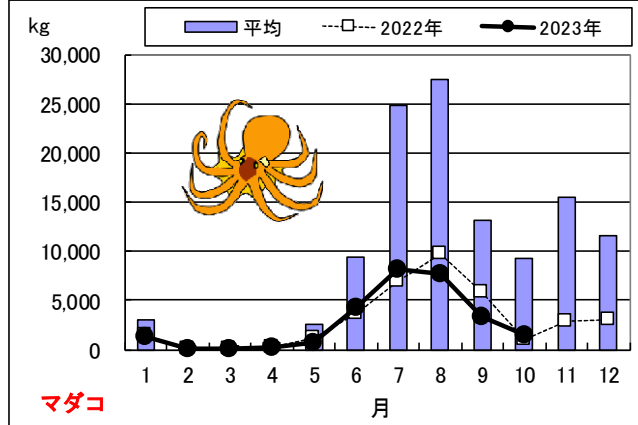
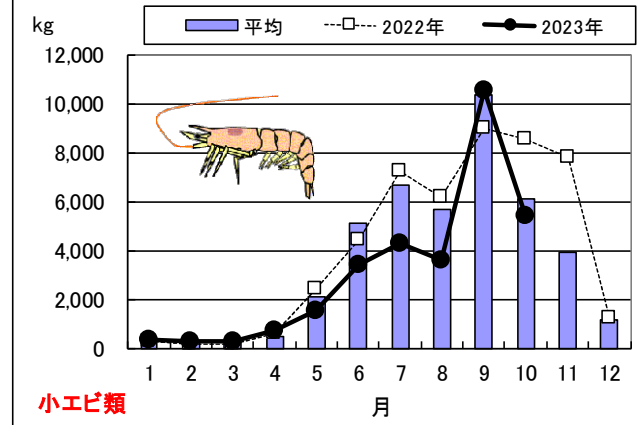
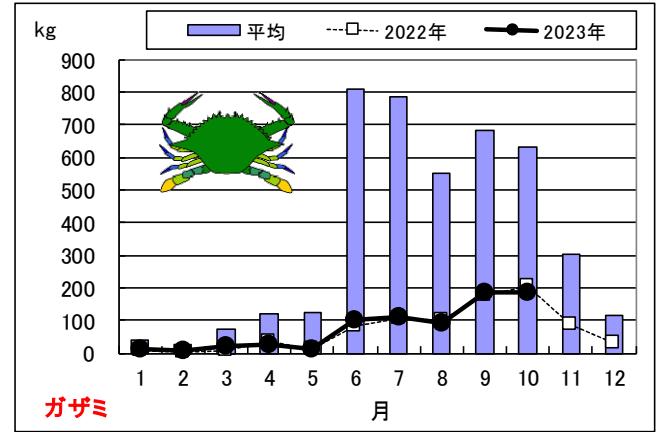
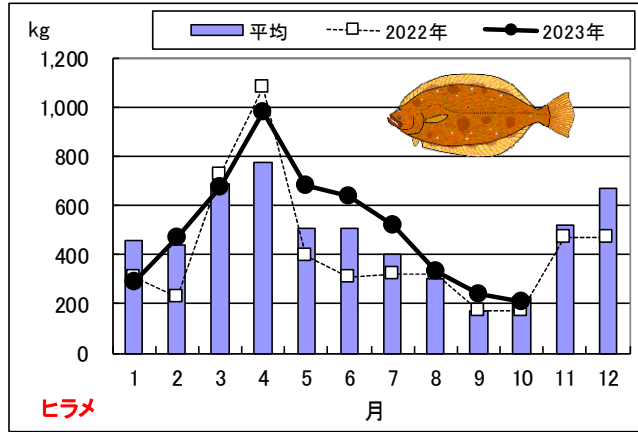
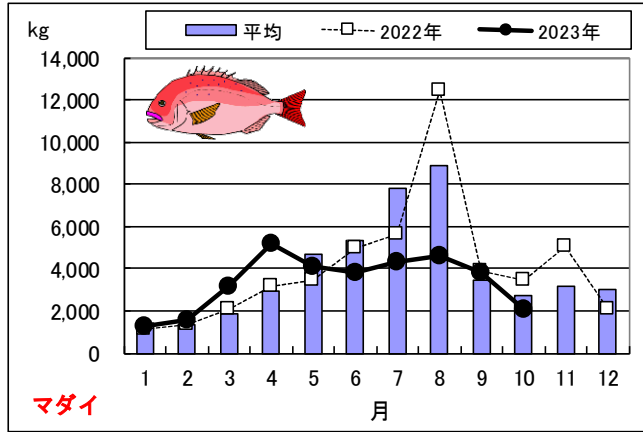
播磨灘（引田+東讃+内海） TACシステムデータより

平均値は、2013年から2022年の10年間の平均。



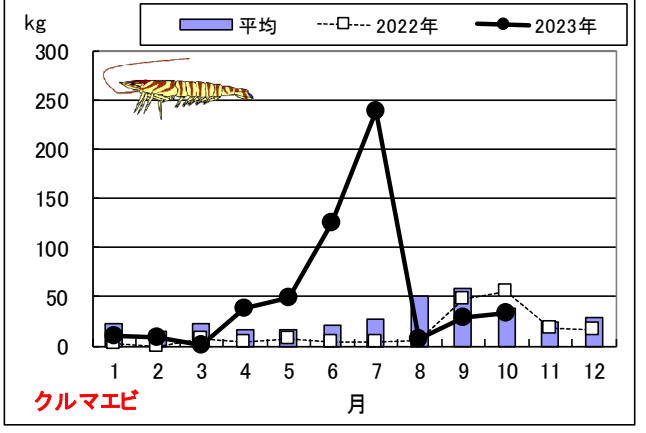
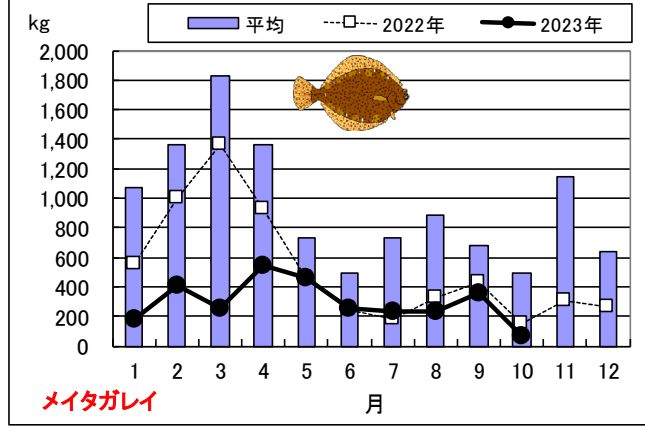
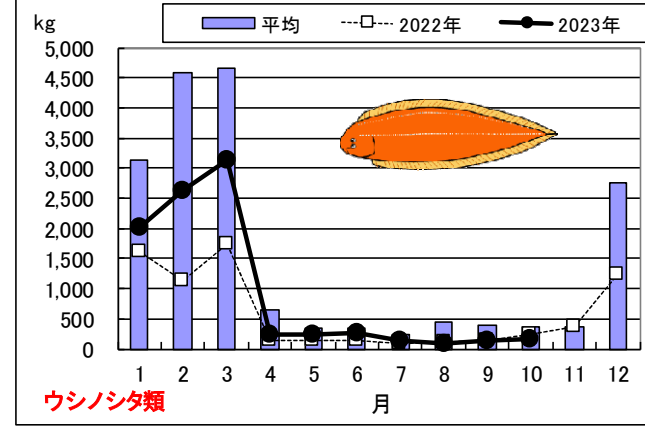
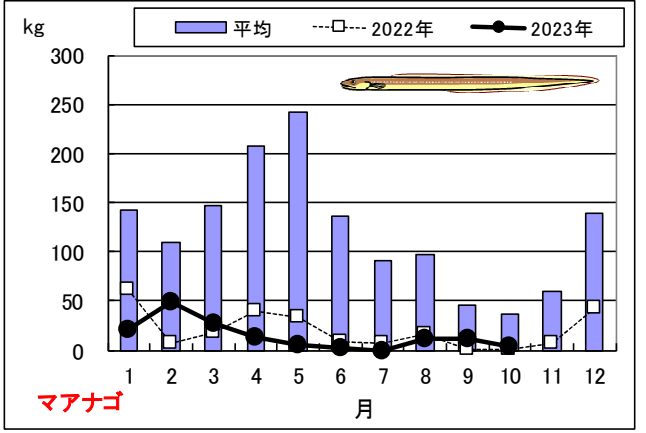
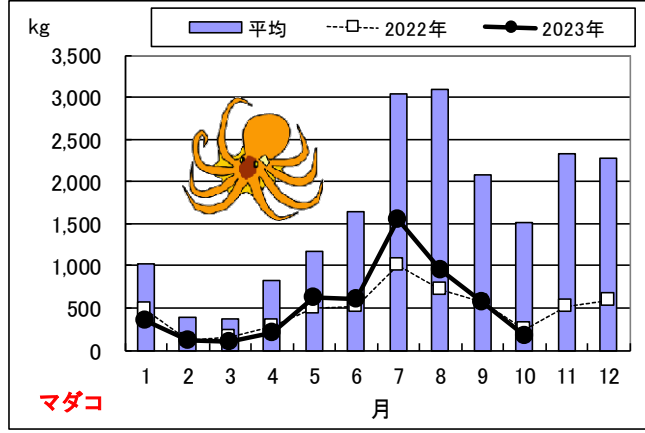
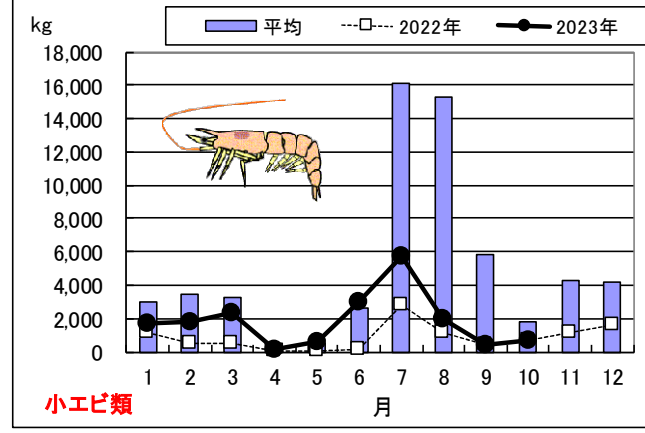
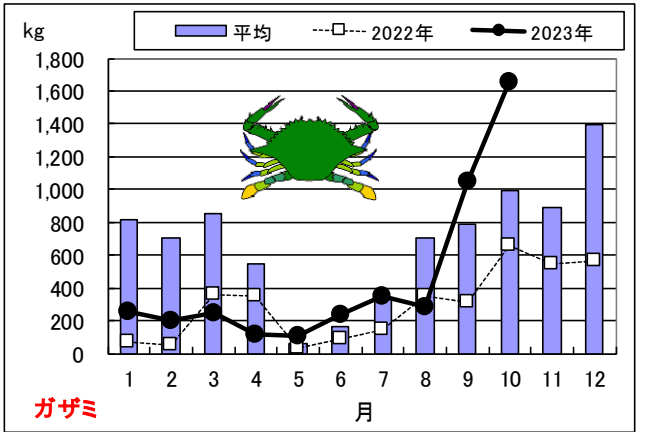
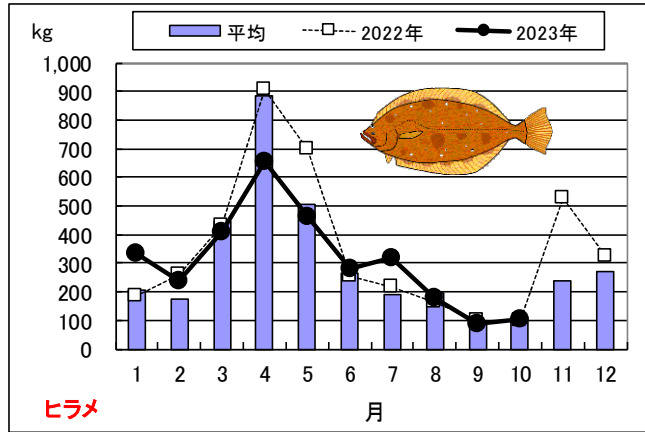
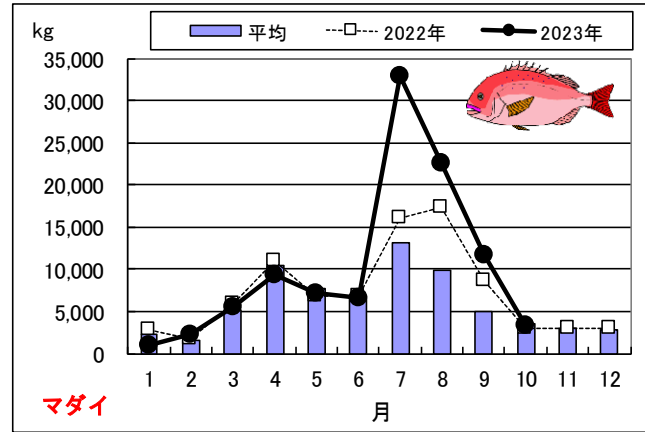
備讃瀬戸（庵治） TACシステムデータより

平均値は、2013年から2022年の10年間の平均。



燧灘（仁尾町+伊吹） TACシステムデータより

平均値は、2013年から2022年の10年間の平均。



海の幸ふれあい市場（中讃地区からの出荷分）

平均値は、2014年から2022年の7年間の平均。

